

点呼ロボの実証実験開始

岐阜梱包安全講習会で取り組み説明

【岐阜】岐阜梱包部社長は「感染予防（堀部友里社長、揖斐郡大野町）は2月29日、大野町総合市民センターで安全講習会を開催。ディ・クリエイト（大阪府豊中市）代表の上西一美氏を講師に招いてのセミナーと併せて、点呼用ロボットを使用した実証実験への取り組みや、今後に向けた新体制の発表も行われた。

新型コロナウイルスによる感染症への警戒感が全国的な広がりを見せるなか、開催には慎重な判断を求められたが、堀

部社長は「感染予防と安全、共に重要なことは思ったが、今回は安全を優先した」と、実施に至った経緯をシビアな表情で説明。会場の入り口では、マスクの配布やアルコール消毒の徹底などで対応にあたった。冒頭であいさつを



堀部社長

行った堀部貞夫会長は、雪が少ない今年の暖冬に触れつつ、流行する感染症に対する所感を述べて「家族にも会社にも影響が出る」と予防動を呼びかけ。さらに上西氏の講演を歓迎しては、この日の講習を踏まえたさらなる安全意識の向上にも期待を寄せた。

上西氏のセミナーは、「交差点通過時の注意点とその実践」のテーマで、ドライブレコーダー映像と随時のディスプレイと交えながら展開。対話型の講習は会場全体の集中力を高め、独自の見解と実践的なアドバイスで、事故防止へ向けた受講者らの当事者意識を喚起した。



講習会の様子

その後、同社の堀部克幸氏から点呼用ロボット「ユニボ」を使用した実証実験の導入が説明され、加えて堀部社長からは新人事と新たな組織編成を報告。堀部社長は「笑顔を大切にしよう」という同社

の経営姿勢の継続をあらためて示した上で、「会社はみんなで作るもの」との考えを表明して全社的な成長を目的とした、次なる一歩への意義を説いた。

また堀部社長はその後、閉会にあたっての言葉を述べて、上西氏に感謝の言葉を贈るとともに自身の感想にも言及。「素晴らしい事故であっても『仕方がない』ではなく、『もろわなくて済むことはできなかったのか』『自分の見えているものが他人に見えているわけではない』というところまで考えながら、ハンドルを握ってほしい」と力強く訴え、この日の講習会を締め括った。

（朝妻聖一）